

名医シリーズ

信頼の主治医

明日の 医療を支える 頼れるドクター

整形外科／脳神経外科／皮膚科／眼科／歯科／
アレルギー科／リウマチ科／循環器内科／神経内科／
心療内科／循環器科／がん治療／乳腺・乳がん治療／
泌尿器科／消化器内科／人間ドック・検査

高精度画像診断による最先端医療の
エキスパート

信
頼
の
主
治
医

世界最新「PEM」の日本初導入で
超早期乳がんの発見！！

名
医

— DOCTOR —



「病気の早期発見、早期治療はまず検査を進んで受けなければ始まりません。疾病予防の意識を高めて是非積極的に検査を受けていただきたいですね」

理事・代表 佐藤 俊彦

医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック



栃木県下で初のPETセンターを開設 コンセプトは「最先端の画像診断を臨床に生かす」

日本人の三大死亡原因と言われているのが、がん（悪性腫瘍）、心臓疾患、脳疾患で、これら3つに関係する病気で年間死亡率の約6割を占める。

21世紀は予防医学の時代だと言われる。わが国の医療行政でも、いつまでも健康で長生きするために疾病の早期発見に力を注いでいる。

こうした中で予防医学を最重要課題として熱心に取り組んでいる医療人が、医療法人DIC宇都宮セントラルクリニックの理事で代表を務める佐藤俊彦医師だ。

佐藤代表が率いる宇都宮セントラルクリニックは、わが国でいち早く「PET-CT」を導入し、栃木県下初のPETセンターを開設した。死亡原因の第一位であるがんの早期発見、早期治療をサポートすると共に、より科学的根拠に基づいた最先端で高精度な画像診断診療を行っている。

とくに女性のがんの中で罹患率が高い乳がんの検診で、最新鋭の乳房専用のPETマンモグラフィ検査装置「PEM」を日本初導入した。

宇都宮市屋板町の宇都宮セントラルクリニックの隣接地に、昨年11月ブレストイメーシングセンター（乳腺画像診断センター）を建設し、乳がんの予防と超早期発見・治療に努めている。

「予防こそ最強の医療」と言い切る佐藤代表は、いつまでも健康で生き続けるため再生医療、免疫療法、遺伝子療法といった先端医療分野をも手掛けるなど八面六腑の活躍ぶりだ。

また、会員制のメディカル倶楽部を展開し、顧問医としてより精度の高いテーラーメイド医療にも取り組んでいる。医師であり企業家でもある佐藤代表の、次代を見据えた複眼的でグローバルな視点からのアプローチは、医療関係者だけでなくビジネス界からも熱い視線と期待を集めている。

日光の名利や那須高原、鬼怒川温泉など数多くの貴重な文化財や神秘的な自然景観などの観光資源に恵まれる栃木県。その中心地に当たる宇都宮市にわが国でも最先端の画像診断センターを特徴とする宇都宮セントラルクリニックがある。

ここではPET画像診断をはじめ、幅広い診療分野にわたっての専門医による一般診療や各種の人間ドック、最先端のがん治療などを行い、国内はもとより遠く海外からも大勢の患者が訪れる。高度最新鋭の医療装置「PET-CT」（陽電子放射断層撮影）を保険診療になる以前からいち早く導入し、栃木県初のPETセンターを開設。高磁場3テスラMRIやCT、最新のがん予防検査テロメスキャンも備え、最先端の画像診断医療を提供している。

佐藤代表は宇都宮セントラルクリニック開設に至った動機を次のように話す。

「米国は医療先進国で、わが国の医療の20年ほど先を行っています。私が平成9年に渡米した際には米国に専門の画像診断センターが多く存在し、遠隔画像診断システムも整っていました。このシステムを日本に持ち帰って、是非画像診断を駆使した最先端のクリニックを作りたいと思いました」

最新の画像診断システムによって、生命を脅かすがんや脳疾患、心臓疾患などの早期発見と予防に役立てたいとの衝動に駆られた佐藤代表は、まず日本で画像診断システムのインフラを確立するためドクターネットという会社を設立。翌年に宇都宮セントラルクリニックを立ち上げ、平成15年には栃木県初となるPETセンターを開設した。

宇都宮セントラルクリニックのコンセプトを「最先端の画像診断を臨床に生かし、人々の健康をサポートするホームドクターとして、新しい形のプライマリーケアを提供することです」と明快に話す。

佐藤代表は画像診断のスペシャリストとしてだけでなく、各地のPETセンターの立ち上げにも参画し、事業家としても卓越した手腕を発揮している。



クリニックの隣接地にあるブレストイメージングセンター
(乳腺画像診断センター)

中
今や2人に1人ががんに罹ると言われ、このうち約3人に1人ががんで亡くなっているという。
でも女性のがん罹患率のトップが乳がんだ。



早期発見すれば9割の乳がんは治る
切らずに治すには1センチ以下で見つけること

米国の女優、アンジェリーナ・ジョリーさんが「遺伝性乳がんの予防」で両乳房を切除したニュースは記憶に新しい。乳がんの抑制遺伝子に異変があり、乳がんになる確率は87%と診断されたそう。彼女は3か月かけて両乳房の切除と再建を行い、乳がんになる確率を5%以下にまで低下させたという。

「米国では家族性乳がんの予防切除はそれほど珍しい事ではありませんが、日本ではまだまだそこまで進んでいません。乳がんの予防法は確立しておらず、乳がん検診が早期発見する最も有効なアプローチなのです」

乳がんの撲滅を呼びかけるピンクリボン運動が世界で広がっているが、わが国ではまだまだ浸透していない。何故浸透しないのかについて佐藤代表はこう説明する。

「米国では85%の女性が乳がん検診を受けて、早期発見に積極的に取り組んでいます。何故なら米国では乳がん検診を受けていないと、それだけ乳がんになるリスクが上がります。保険料も高くなるからです」

女性が罹患するがんの1位は乳がんだが、死亡率は4位(女性全体で)となっている。その理由は、乳がんは早期発見出来れば他のがんに比べて治癒率が高いためだ。乳がんは早期発見(がんが2センチ以下で腋の下のリンパ節に転移がない状態)されれば極めて高い確率で治癒し、10年生存率は9割を超えるという。

乳がん治療に早期発見にまさるものではなく、佐藤代表は「そのためには正確な画像診断を定期的に受けることが大切です。たとえ乳がんであっても1センチ以下なら乳房を切らずに治癒できます」と乳がん検診の重要性を説く。

超早期なら最新の放射線治療のトモセラピーや塞栓術、RF焼却療法や免疫療法など、乳房を切らずにすむ治療法を選択でき、それらを組み合わせることでより治療効果の向上を図ることが出来るのだ。



痛みの少ないトモシンセシスで見えなかった病変をチェック 世界最新のPEM(乳腺専用PET検査)を日本初導入

従来、乳がんは自分でシコリを見つけて初めて医師にかかる場合が多かった。しかし自分で触っても分からない乳がんも多いため、自己検診だけでは不十分だ。

現在の乳がん検診はマンモグラフィー検査と超音波(エコー)検査が中心だが、マンモグラフィーは乳房を上下左右から硬い板で圧迫するため痛みを伴う。また乳がんの20%程度が検出できないという問題もあった。

このため佐藤代表は、もっと優れた検診法はないものかと模索していた時のことだった。

「北米の放射線学会でトモシンセシスという新しいマンモグラフィーの臨床成績を目のあたりにし、これだとひらめきました。圧倒的な診断能を有し、しかも従来のマンモグラフィーに比べて



佐藤代表は数多くの著書を通して啓発活動にも熱心だ

検査時の痛みが格段に少なくなっていたのです」
佐藤代表が瞠目したトモシンセシスは、乳房を短時間でスキャンし、複数の角度から断層像を作って収集する痛みの少ない最新の撮影技術である。さらに従来のマンモグラフィより診断能も優れており、このトモシンセシスを乳がん診療の主軸にしようと決断して、栃木県下で初導入する。

「トモシンセシスの導入によって、これまでのマンモグラフィでは見えなかったさまざまな病変が見えてきました。ただがんらしくない小さな病変も多数見えるため、がんの確率が高いものをどう生検に誘導していくかが問題となりました」と佐藤代表は振り返る。

そこでMRIのパラメトリックマップという画像処理で、がんの血流パターンを赤に、良性腫瘍の血流パターンを青に自動解析するソフトウェアを開発。これによって読影の効率や精度を向上させることに成功した。

「ただ術後の乳房は変形しているため、がんの再発の診断は困難を極めます。またMRIでは乳腺症のためにバックグラウンドの造影効果が激しく、病変の血流診断に困難をきたす例もありました」

どうしたものかと対策を検討し、下した結果が米国製の「PEM」(乳腺専用PET検査装置)の導入だった。

PEM(ペム)は世界最新の乳がん検査機器である。乳腺専用のPET検査装置で、PET用の薬剤を静脈に注射するが、5〜10分程度の検査時間で済み、ほとんど痛みもない。

乳がんの超早期発見や術後の再発診断の確度は飛躍的に向上し、医療の最先端を行く欧米を中心にアジアなどでも



最新鋭の乳房専用のPETマンモグラフィー検査装置「PEM」



乳腺専用の画像診断センター「フレステイメーシングセンター」を開設 PEMで2ミリ以下の超早期発見と再発防止に威力

その有効性が認められていた。

PEMを導入したところは世界でも70施設しかなく、日本で導入している施設はなかったが、佐藤代表は日本初となるPEMの導入を決意した。

「これまでも乳腺の画像診断でPETが使用されていましたが、乳がんの原発巣（最初に発生したがん）の診断で小さいがんや特殊な組織型のがんを見逃してしまう事が指摘されていました。このPEMは全身用のPETより細かな病変を指摘することが可能になり、良性か悪性の鑑別も可能です。従来の乳がん画像診断と比べはるかに性能がアップし、極めて初期のがんも発見でき、再発も防げる画期的なものです」

PETのがん細胞の分解能が約4〜5ミリなのに対しPEMは2ミリと高性能で、がん細胞をできるだけ小さいうちに早期発見すれば乳房を切らずに治療出来るだけでなく、ほとんど再発することもない。これは女性にとって大変な朗報だ。

この「福音」をより多くの女性に知ってもらい、辛い思いをする女性が少しでも少なくなればと佐藤代表は平成25

年11月に乳腺専門のブレストイメーシングセンターを建設した。

ブレストイメーシングセンター建設にあたり建設構想を何度も練り直し、乳腺関連の画像診断を効率的に実施するために1年かけてシステムを開発。こうして乳腺外来での総合画像診断のシステムの構築が完了し、臨床応用の可能を待ってオープンにこぎつけた。

このセンターでは乳腺専門医の診療のもと、画像機器も乳腺分野の診断に特化。最先端の画像診断を駆使して、乳がんの予防と超早期発見・治療に努めている。

3Dトモシンセシスを始め、3D超音波（ABVS）、PEM、テロメスキャンなど、世界最高水準の最先端装置を備えた質の高い医療を提供しているのだ。

さらに男性と女性との検査動線を玄関口から完全に分け、検診から治療まで女性が安心して受診できるよう配慮されている。またPET検診を受ける女性は、すべてPEMを無料で受けることが出来る特典があるのも魅力だ。



テロメスキャンで術後の見えないがんのフォローアップも万全 一年に一度の高精度画像の乳がん検診が最強の治療法

女性のがんを患って夫婦関係が悪化し、離婚に至る「がん離婚」。妻ががんに罹ったなら夫が支えるのが当然なのだが、実際はそういかないうケースも多い。乳がんの場合手術で乳房を失うと女性としての魅力がなくなり、夫婦関係も冷却していくなど切実な現実があるようだ。

しかし、もし乳がんになっても1センチ以下の超早期発見なら乳房を切らずに治癒でき、再発の心配もしなくて済む。その超早期発見と治療にどうしても必要なのがブレストイメーシングセンターであった。

佐藤代表は「このセンターには私の四つの思いが凝縮されています。精度の高い乳がん画像診

断の提供と乳がんの超早期発見。それにセカンドオピニオンを求める患者さんに正確なり・ステージング（病期の再診断を行い治療計画の立案や指導）の提供。そしてすでに治療を終えた方には術後の十分なフォローアップ検診をすることです。米国ではこういう施設は数多くありますが、私は何としても日本で作りたかった」と熱い思いを語る。

ここでは1センチ以下の乳がんを見つけることに主眼を置いている。検診ではトモシンセシスに超音波でのスクリーニング、PET検査ではPETを併用できるようシステムの再構築も行い、テロメスキャンで術後のフォローアップも万全の態勢を整えている。

テロメスキャンとは血液中を流れるごく小さながん細胞を見つける最新の診断法だ。細胞レベルでの発見になるためより早い発見と治療ができる。もしがん細胞が発見されれば、同センターで超音波や最新の免疫細胞療法（DC-BACK療法）を付加したより完璧な治療が可能となるのだ。乳がん検診の現場は時とともに変化を遂げ、乳腺の画像診断機器も目をみはる進歩を遂げてきた。従来発見されなかったような極めて小さな乳がんも発見可能になり、超早期発見によって切らずに治す最新治療も開発されている。

「私たちの生活環境はますます複雑高度化してストレスが昂進し、さまざまな要因とも絡んで乳がんのリスクからは逃れることはできません。定期的な乳がん検診で早期発見に努めることこそ最強の治療法です。一年に一回は高精度画像の乳がん検診を受診することで、辛い思い、悲しい思いをする女性がなくなることを願ってやみません」

佐藤代表が理想とし、情熱を注ぎ開設したブレストイメーjingセンターは、日本の乳がん治療のさらなる可能性を拓けていくに違いない。

佐藤 俊彦 (さとう・としひこ)

昭和 35 年 9 月生まれ。昭和 60 年福島県立医科大学卒業後、同大放射線科入局。日本医科大学第一病院、獨協医科大学病院、鷺谷病院副院長を経て、平成 9 年宇都宮セントラルクリニック(現医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック)を開設。同 14 年(株)ドクターネット設立。同 23 年登美ヶ丘画像診断クリニック院長、同 24 年に野口記念インターナショナル画像診断クリニックを開設。

所属・活動

日本放射線学会専門医。医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック理事、セントラルメディカル倶楽部顧問医、(株)共生医学研究所取締役、(株)フリール取締役、メディカルリサーチ (株)顧問医、米国財団法人野口医学研究所常務理事。

著書に「100 歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣」(幻冬舎)、「だから放射線医はおもしろい!」(現代書林)、「福島原発事故 2015 年問題の真実」(同)、「がん消滅見えないがんを見つけて叩く」(同)、「超早期乳がん最新治療」(同)など。

I

nformation

医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック

所在地 〒321-0112 栃木県宇都宮市屋敷町 561 - 3
TEL 028-657-7300 FAX 028-657-7301
URL <http://www.ucc.or.jp>
E-mail: master@ucc.or.jp

アクセス

- J R 宇都宮駅からタクシーで 15 分
- バスは J R 宇都宮経由 (9 番) ことぶき会館前下車。約 20 分
- 東北自動車道川口 J C T から約 45 分、北関東自動車道栃木都賀 J C T から約 10 分、同宇都宮上三川 I C から約 10 分



設立 平成 9 年

診療科目

- 一般外来 (内科・消化器科・呼吸器・アレルギー科・整形外科・リウマチ科・禁煙外来・神経内科・循環器内科・呼吸器外科・乳腺外来・放射線科・画像診断セカンドオピニオン外来・一般検診)
- 各種人間ドック・健康診断
- がん治療 (免疫細胞療法・BAK療法・トモセラピー・テロメスキャン・高濃度ビタミンC点滴療法・遺伝子療法・分子樹状細胞療法・自家がんワクチン)

診療時間 月～土曜日 9:00 - 12:00
14:00 - 18:00
日曜日 9:00 - 12:00
祝日休診
問い合わせ先 高田・小田桐



9784888544795

ISBN978-4-88854-479-5

C0047 ¥1800E



1920047018006

定価 (本体 1,800円+税)

発行 株式会社 ぎょうけい新聞社

発売 図書出版浪速社

企画 産経新聞生活情報センター

Tomorrow's medical treatment is supported.

飯森クリニック	院長 飯森 洋史
医療法人 井上整形外科	理事長・院長 井上 剛
医療法人社団 孝尋会 上田脳神経外科	理事長・院長 上田 孝
医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック	理事・代表 佐藤 俊彦
大阪梅田紳士クリニック	院長 平山 尚
医療法人社団 世恵会 小倉台福田医院	理事長・院長 福田 世一
医療法人 つとむ会 澤田内科医院	理事長／澤田肝臓・消化器内科クリニック 院長
	澤田 幸男
仁整形外科クリニック	院長 松林 保智
医療法人 仁樹会 秩父臨床デンタルクリニック CT インプラントセンター	
	理事長 栗原 仁
医療法人社団 豊流会 ツチダクリニック	理事長・院長 土田 豊実
医療法人社団 鳥居靖真会 とりい皮膚科クリニック	理事長・院長 鳥居 靖史
医療法人 乳腺クリニック児玉外科	理事長 児玉 宏
ふじ養生クリニック福岡	院長 藤本 勝洋
医療法人社団 nagomi 会 まつだ整形外科クリニック	理事長・院長 松田 芳和
みやうち内科・消化器内科クリニック	院長 宮内 智夫
医療法人社団 貴正会 村上内科医院	理事長・院長 村上 正志
矢追インバクトクリニック東京	院長代理 矢追 博美
医療法人 山桃会 Y.H.C. 矢山クリニック	理事長 矢山 利彦
ラ・ヴィータ メディカルクリニック	院長 森嶋 淳友
和田眼科	院長 和田 佳一郎